

原稿 正本

テモテ後書

第一章

一 神の旨により、キリスト、イエスにある生命の約束に従ひて、キリスト、イエスの使徒となれるパウロ、書を我が愛する子テモテに贈る。願くは父なる神及び我らの主キリスト、イエスより賜ふ恩恵と憐憫と平安と、汝にあらんことを。別行 われ夜晝も祈の中に断えず汝を憶ひて、我が先祖に效ひ清き良心をして事ふる神に感謝す。我、汝の涙を覺えわが歡喜の満ちん爲に汝を見んことを欲す。是なんぢに在る虚偽なき信仰を憶ひ出すによりてなり。その信仰の裏に汝の祖母ロイス及び母ユニケに宿りし如く、汝にも然るを

六 確信す。この故に、わが按手に由りて汝の内に得たる神の賜物を熾んにせんことを勸む。そは神の我らに賜ひたるは臆する靈にあらず、能力と愛と謹慎との靈なればなり。されば汝、われらの主の證をなす事と主の囚人たる我とを恥とすな。たゞ神の能力に備ひて福音のため、に我と共に苦難を思ふ。神は我らを救ひ聖なる召をもて召し給へり。是われらの行為に由るにあらず、神の御旨にて創世の前、にキリスト、イエスをよめて我らに賜ひし恩恵に由るなり。この恩恵は今、われらの救主キリスト、イエスの現れ給ふに依りて現れたり。彼は死を亡ぼし、福音をもて生命と朽ちざる事

聖書改譯原稿用紙

＊或は「我」と譯す

土 ことを明かに為給へり。我はこの福音のために立てられて

三 宣傳者、使徒、教師となれり。之が爲に我これらの苦難に遇

ふ。されど之を恥とせず我わが依頼む者を知り且わが委ね

たるものをかの日に至るまで守り得給ふことを確信すれ

三 ばなり。汝キリスト、イエスにある信仰と愛とをもて我よ

西 り聞きし健全なる言の模範を保ち、且委ねられたる善き

五 ものを我等の中に宿り給ふ聖靈に頼りて守るべし。アジ

六 ヤに居る者みよ我を棄てしは汝の知る所なり、その中にツ

六 ゲロとヘルモゲネとあり。願くは主オネシホ口の家に憐

聖書改譯原稿用紙

六 憫を賜はん事を、彼はしばしば我を慰め又わが鎖を取とせ

六 ず、その口マに居りし時に懇ろに尋ね來りて遂に我に會

六 いたり。願くは主かの日にいたり主の憐憫を彼に賜はん

六 事を彼がエペソにて我に事へしことの如何ばかりなりし

六 かは汝の能く知る所なり。

第二章

生活のたのみに纏は

憶

別所氏三注意云
たろ七十七月九日付

一	わが子よ、汝キリスト、イエスにある恩恵によりて強か	二	れ。且おほくの證人の前にて我より聞きし所のことを他	三	の者に教へ得る忠實なる人々に委ねよ。汝キリスト、イエ	四	スのよき兵卒として我と共に苦難を忍ぶ。兵卒を務むる	五	者は生活の爲に己を累はす事なし。これ募れる者を喜ばせ	六	んとすればなり。技を競ふ者もし法に遵ひて競はずば冠	七	冕を得ず。勞する農夫まづ實の分配を得べきなり。汝わ	八	が言ふ所を思へ、主なんぢに凡ての事に就きて悟を賜はん。	九	わが福音に云へる如くダビデの裔にして死人の中より	十	魁へり給へるイエスキリストを讃えよ。我はこの福音の	十一	ために苦難を受けて悪人の如く繋がるゝに至れり、然れど	十二	神の言は繋がれたるにあらず。この故に我えらばれたる	十三	者のために凡ての事を忍ぶ。これ彼等をして永遠の光榮と	十四	共にキリスト、イエスによる救を得しめんとなり。爰に	十五	信ずべき言あり。我等もし彼と共に死にたる者あらば、彼と	十六	共に生くべし。もし耐へ忍ばば、彼と共に王となるべし。若	十七	し彼を否まば、彼も我らを否み給はん。我らは眞實ならず	十八	とも、彼は絶えず眞實にまします。彼は己を否み給ふこと	十九	能はざればなり。汝かれらに此等のことを思出さしめ、
---	---------------------------	---	---------------------------	---	----------------------------	---	---------------------------	---	----------------------------	---	---------------------------	---	---------------------------	---	-----------------------------	---	--------------------------	---	---------------------------	----	----------------------------	----	---------------------------	----	----------------------------	----	---------------------------	----	-----------------------------	----	-----------------------------	----	----------------------------	----	----------------------------	----	---------------------------

聖書改譯原稿用紙

五 かつ言争する事おきやう神の御前にて嚴かに命ぜよ言争
 は益なくして聞く者を滅亡に至らしむ。なんぢ真理の言
 を正しく教へ、恥づる所なき労働人となりて神の前に煉達
 せる者とならんことを務めよ。また妄りなる空しき物語
 を避けよ。斯る者はますく不敬虔に進み、その言は脱疽
 のごとく腐れひろがるべし、ヒメナヨとピレトとは此の如
 きもの中^{うち}にあり。彼らは真理よりはづれ、復活ははや過
 ぎたりと云ひて或る人々の信仰を覆へすなり。されど神
 の据ゑ給へる聖き基は立てり之に印あり、記して曰ふ「主お
 のれの者を知り給ふまた凡て主の名を称ふる者は不義を

聖書改譯原稿用紙

二 を離るべしと、大なる家の中には金銀の器あるのみなら
 ず、木また土の器もあり、貴き^{たか}に用ふるものあり、また賤き^{いや}に
 用ふるものあり。人もし賤しきものを離れて自己を潔よ
 くせば貴き^{たか}に用ひらるゝ器とあり、浄められて主の用に適
 ひ、凡ての善き業に備へらるべし。汝わかき時の慾を避け、
 主を清き心にて呼び求むる者と共に義と信仰と愛と平和
 とを追ひ求めよ。愚かなる無学の議論を棄てよ、これより
 争の起るを知らばなり。主の僕は争ふべからず、凡ての人
 にやさしく能く教へよ、忍ぶことなし、逆ふ者をば柔和を
 もて戒むべし、神あるいは彼らに悔改むる心を賜ひて真理

わらう
 かん

三

を悟サトらせ給たまはん。彼かれら一ひと度は悪魔あくまに囚とられたれど覺おぼさしめ

その惡わるを逃のがれ神かみの御み旨めを行おこふに至いたらん。

罪つみ 意い 醒さめて

聖書改譯原稿用紙

第三章

傲慢者

悪にすすみます

二 されど汝これを知れ、末の世に苦しき時きたらん。人

々己を愛する者、金を愛する者、誇る者、傲る者、罵る者、父母に

逆ふ者、恩を忘る者、潔からぬ者、無情なる者、怨を解かぬ

者、誹る者、節制なき者、殘刻なる者、善を好まぬ者、友を賣る

者、放縱なる者、高ぶる者、神よりも快樂を愛する者、敬虔の

貌をとりにてその徳を捨つる者、とらるる者、斯る類の者を避け

よ。彼らの中には人の家に潜り入りて愚なる女を擲にす

る者あり、斯くせらるる女は罪を積みてさまぐの懲りに引

かれ、常に學べども真理を知る知識に至ること能はず。

八 彼の者はヤンネとヤンブレとがモーセに逆ひし如く、真理

に逆ふ者、心の腐れたる者、また信仰につきて棄てられたる

者あり。されど此の上になほ進むこと能はじ、そは彼の二

人のごとく彼らの愚なる事も亦すべての人に顯るべけれ

ばなり。汝は我が教誨品行、意志、信仰、寛容、愛、忍耐、迫害及び

苦難を知り。またアンテオキア、イコニオム、ルステラにて

起りし事、我が如何なる迫害を忍びしかを知る。主は凡てこ

れらの中より我を救ひ出し給へり。凡そキリスト、イエス

に在りて敬虔をもて一生を過ぎんと欲する者は迫害を受

くべし。愚しき人と人を欺く者とは、増々悪に進み人を惑

聖書改譯原稿用紙

悪

五 面 ひと まどは しました人に惑まどはされん。然されど汝おんがは學まなびて確かく信しんしたる所ところに

五 常つねに居をれ。おんぢ誰たれより之これを學まなびしかをし知り、また幼こき時とき

より聖せいなる書みみを識しりし事ことを知しればなり。この書みみはキリスト、

イエスを信しんずる信しん仰かうによりて救すくひひに至いたらしむる智ち慧ゑを汝おんがに

五 夫おとこ與あへ得うるなり。聖せい書しよはみな神かみの感かん動どうによるものにして教を

五 誨へと譴せん責せめと矯けう正せいと義ぎを薰くん陶たうするとに益えきあり。これ神かみの人ひと

の全まことくなりて諸もろ般ぱんの善よき業わざに備とまへを全まことうせん爲ためなり。

聖書改譯原稿用紙

テモテ後書

一 二 三 四 五 六 七

かれ神の御前また生ける者と死にたる者とを審かん
 とし給ふキリスト、イエスの御前にてその顕現と御國とを
 おもひて嚴かに汝に命じ、ふんぢ御言を宣傳へよ、機を得
 るも機を得ざるも常に勵め、寛容と教誨とを盡して責め、戒
 め、勧めよ。人々健全なる教に堪へず、耳痒くして私慾のま
 に、己がために教師を増し加へ、耳を真理より背けて
 昔話に移る時來らん。されど汝は何事にも慎み、苦難を忍
 び、傳道者の業をなし、汝の職を全うせよ。我は今、供物と
 して血を灑がん、とす、我が去るべき時は近けり。われ善き

聖書改譯原稿用紙

八 九 十 十一 十二

戦闘を戦ひ、走るべき道程を果し、信仰を守れり。今よりの
 ち義の冠冕わが為に備はれり、彼の日に至りて正しき審判
 主なる主、これを我に賜はん、當に我のみならず、凡てその顕
 現と慕ふ者にも賜ふべし。
 なんぢ勉めて速に我に來れ。デマスは此の世を愛し
 我を棄て、テサロニケに往き、クレステスはガラテヤに
 テトスはタルマテヤに往きて、**た**ルカのみ我と偕に居
 るなり。汝マコを連れて共に來れ、彼は**務**のため、我に益あ
 りばなり。我テキコをエパソに遣せり。汝きたる時、わが
 トロアスにてカルポの許に遣し置きたる外衣を携來れ、ま

携へきたれ

四

た書物殊しよもつこに羊皮紙やうひしのものを携たづなへ來きたれ金細工人かねさいくになんアレキサ

ンデル大おほいに我われを惱あやまませり。主しゆはその行為あこぢいに從したがひて彼かれに報あい

給たまふべし。汝おんぢもまた彼かれに心こころせよ。彼かれは甚はぢだしく我われらの言ことばに

逆さかひたり。わが始はじめの辯明べんめいのとき誰たれも我われを助けず。みな我われ

を棄すてたり。願ねがはくはこの罪つみの彼かれらに歸かへせざらんことを。こ

れど主しゆわれと偕ともに在いまして我われを強つよめ給たまへり。これ我われに由よりて

宣教せんけうの全あまたうせられ、すべての異邦人いほうじんの之これを聞きかん為ためなり。而しか

して我われは獅子ししの口くちより救すくひ出いされたり。また主しゆは我われを凡すべ

ての惡あしき業わざより救すくひ出いし、その天てんの國くにに救すくひ入いれ給たまはん。

願ねがはくは栄光えいこう世々よよ限りなく彼かれにあらんことを。アアメン。別件べつけん汝おんぢ

六

プリスカ及びおとアクイラ、またオネシポロの家いへに安否あんひを問とへ。

エラストはコリントに留とどめり。トロピモは病やまあり故ゆゑに我われ

かれをミレトに残のこせり。なんぢ勉こめて冬ふゆの前まへに我われに來きたれ。

ユブロ、プロテス、リノス、クラウデア、及び凡すべての兄弟きやうだいなんぢに

安否あんひを問とふ。

願ねがはくは主しゆなんぢの靈れいと偕ともに在いまし、御惠みめぐみなんぢらと偕ともに

在あらんことを。

聖書改譯原稿用紙